

第1回放課後子どもひろばにかいどう外3施設  
指定管理者選定委員会 議事概要

1 日時

令和4年(2022年)4月27日(水)10時から11時半まで

2 場所

鎌倉商工会議所 102 会議室

3 出席委員

加藤委員長・松原副委員長・石見委員・大西委員・品川委員

4 事務局出席者

小林(青少年課長)・田中(青少年課青少年担当担当係長)・川村(青少年課青少年担当職員)・高橋(青少年課青少年担当職員)

5 協議等内容

(1) 委員長、副委員長の選任について

委員長の選任を議題とし、協議の結果、互選により加藤委員を委員長とした。

副委員長の選任を議題とし、協議の結果、互選により松原委員を副委員長とした。

(2) 会議の公開について

当委員会の公開・非公開、傍聴の許可、委員会の開催の周知、会議録の取扱いについて協議を行い、第3回の応募者のプレゼンテーション及びヒアリングについては公開とし、傍聴を許可することとした。

なお、会議録は、採点や審査に関わる部分、発言の委員名以外を公開し、候補者選定後に情報公開する。

(3) 仕様書(案)及び募集要項(案)に係る質疑等

委員長: 利用料の改定について保護者の了承を得られたのか。

事務局: 保護者説明会を行い、了承を得ている。鎌倉市として、運営費の半分を保護者に負担してもらいたいという考え方である。他市と比較しても、鎌倉市の利用料は低い方であることを保護者も理解していた。2月議会で可決している。併せて、月単位で徴収していた延長利用を1回ごとの徴収に変更し、利用実態に合わせ、スポット利用にも対応できるようにした。また、夏休み期間中の平日など学校休校日の開所時間を8時15分としていたが、学校に

行く時間帯と同じ8時に変更し、家庭のルーティンに沿う形とした。

委員長：市としても、要望に合わせて少しずつ改善していることが分かった。

事務局：利用料改定も行うが、他に見直しができるところは順次見直しを行う。そういった点も含めて、保護者の了承を得た。

委員：指定管理者と適宜打合せしていると思うが、運営する上での課題等はあるか。また、今回応募する際にこの点が改善されていると良いと感じる点はあるか。

事務局：今回、選定基準表の点数をはじめ、仕様書、募集要項の内容を変更している。その中で特別な配慮を必要とする児童というところで、特別な配慮をする基準がなかなか難しいという話がある。仕様書においては必要があれば支援員の加配をして対応するように謳ってはいるが、加配をすることによって対象の児童がどう感じるか、そのあたりが難しいという話を指定管理者とすることが多い。もちろんすべての児童を見守ることが大前提なので、市としてはどんな児童でも平等に対応して受け入れをしてほしい旨は伝えている。

委員長：これは重要な問題である。特別な配慮を必要とする児童の取り扱いについては今後注目すべき課題となるかもしれない。

事務局：鎌倉市では、特別な配慮を必要とする児童の対応への連携や保護者間のやりとりなどの業務を行っている巡回相談員（会計年度任用職員）を1名から2名に増員している。全施設が指定管理施設になるため、施設の巡回を強化している。

委員：別の勉強会での話だが、発達障害等の診断結果が出ている児童もサポートが必要だが、診断が出ていなくても気になる児童もあり、その保護者の認知の仕方によってサポートがすごく難しいという話を聞いたのが気になった。

委員長：品川委員は学校との関係などで気になる点や見てもらうことで助かる、あるいはこのことで議論になったことはあるか。

委員：クラスの中で気になる子はいる。その情報の共有は個人情報になるため難しい。子どもによっては、学校と学童で様子が異なることもあるため、学校での様子が生かせないことがある。そのため、巡回相談員に見てもらうことは必要なのではないかと思う。

委員長：巡回相談員は学校とも連携できるのか。

事務局：学校との連携も今後は必要だと考えている。品川委員が述べたように学校と学童で様子が違うこともあり、学校で起こった出来事がきっかけで学童に着いたとたん、感情が表に出る児童もいるので、そういったことが現場の支援員から巡回相談員に円滑に情報共有ができる取組みを進めている。また、教育委員会に教育センターという相談業務を行っている部署もあるため、

昨年度から教育センターの職員とはできる限りの情報共有を昨年度から試行錯誤しながら行っている。

委員長：PTAの中で困っていることなどあるか。

委員：発達に課題がある児童等については、親が自分の子に障害があると思うと自分から相談にも行き、積極的にどういう支援が必要か探しに行くが、親が自分の子は要配慮の児童ではないと思うと、一切、そういったところに行かず、支援サービスを教えても自分には関係ないと思い込んでしまうのですごく難しいことだと思っている。

委員長：この点については、プレゼンテーション時にこれに関連する質問ができるといいと思う。事務局から他に補足あるか。

事務局：選定基準表の点数を320点に増やした理由について、今まで120点満点であったが、それだと差がつきにくい。また、どこが評価されているか明確になっていない部分があった。選定委員の皆様にはお手数おかけすることになるが、上記のような思いがあって見直しを行った。

委員長：各質問項目の配点が10点または20点とあるが、この配点の差に意味はあるか。

事務局：市として思いが強いところが20点になっている。あくまで案のため、ご意見いただければと思う。別の配点もあれば言っていたきたい。

委員：選定基準表の変更点について詳細に説明してほしい。

事務局：追加部分は、法令順守について、特別に配慮を必要とする児童への取り組みについて、基本理念に基づく事業の実施について、利用者満足度向上策、ICT活用における放課後かまくらっ子の運営について、コーディネーターとのコミュニケーションについて、引継ぎ体制についてを追加している。

委員：引継ぎ体制が10点なのにICTが20点なのには理由があるか。

事務局：ICT活用について20点としたところについては、コロナ禍においてオンラインでの活動についても推し進めていきたいと考えているため、20点としている。

委員：追加項目10点と20点の差は重要度の差ということでよいか。

事務局：放課後かまくらっ子は、令和2年12月に全校での実施となり、1年以上経過している。今後は基本的な運営はもとより、プラスαで質の向上のフェーズに入っていると考えている。より今後、質を伸ばしていきたい、そのために事業者の姿勢を問いたい、質の向上を目指すにあたって事業者を確認したい部分や、もっと伸ばしたいと思う部分の配点を多めに、基本的な部分や必須条件について配点を10点にしている。

委員長：今回、項目が増えることで採点する側としてはより難しくなっていると感じる。いただいた資料を読み、調べた上で、質問の際にも聞かなければいけない

いと思う。

委員：文章上の確認だが、「事業を実施しているか」「取り組みがなされているか」とあるが、「しようとしているか」で判断してよいか。でないと、既存の事業者でないと応募できなくなってしまう。

事務局：ご認識のとおり。応募者は事業運営している事業者のみとは限らないので今後の姿勢を問うという視点で採点いただければと思う。

委員長：意識的な向上をするという意味で内容変更されているため、選定委員はプレゼンテーションを受けるまでの間に相当丁寧に読み込む必要がある。

#### (4) プレゼンテーマ（案）に係る質疑等

委員：資料7と資料8の関連性はあるか。

事務局：事務局案としてプレゼンテーマを作成するにあたっては、質を向上していくために事業者がどういう提案をしてくれるか、どういう理解を持って臨んでくれるかというところを問いたいと思っている。毎年、推進部会の中でアンケートの調査をして、結果・評価をいただいている。その評価をもとにテーマ案を思いつくままあげさせていただいた。基本的に、今後のかまくらっ子に期待したいことであるとか、アンケート調査で分かってきた課題であるとか、そういったところを中心に案として出させていただいた。

アンケート調査の結果の中で、どうしてかまくらっ子に行っているかという質問に対し、「親が行ってこいと言ったから」、保護者側の意識としてどうして預けているかという質問に対して、「必要だから」という回答が多いことが課題としてあげられた。そのため、例えば、プレゼンテーマを「自主的に通いたくなるか」「自発的に子どもが行きたいと言ってくれるような場所になるか」につながる内容とし、それに対し、事業者がどう考えを持っているか確認したいと考えている。また、一定程度は、放課後かまくらっ子に参加することによって地域と子どもとのかかわりが増えることを期待して行っているが、コロナの影響もあり、評価ができない部分もあったので、地域とのかかわりという部分もプレゼンテーマのひとつとして考えている。さらに、子どもたち全体では満足度が高くても、学年別にみみると高学年は満足度が低い傾向、低学年の方が満足度が高い傾向がある。学年があがっても変わらず来たいと思えるかまくらっ子を目指していきたい。

委員長：アンケートの結果でいうと、かまくらっ子に通った子ども達が中学生、高校生、大学生になった時にこの活動を支援してくれるような仕組みを作りたいと思っている。皆様のご関心のあるテーマはなにか。

委員：今年度、第二小・中学校ではコミュニティ・スクールのモデル校になると伺っている。学童と連動も必要なのではないか。

委員長：この中では、大事にしたいキーワードだけお伝えすればよいか。この中から1つ選んだ方がよいか。キーワードでいえば「自発的」がひとつポイントかなと思う。ここを膨らませてプレゼンテーションしてもらうのもよいのではないか。

事務局：方向性が決まれば5月中に一度お伝えしたい。

委員：私も自発的に参加したい居場所というところがよいと思う。高学年に絞ると限定的になってしまう。

委員長：これからの方向性を示すという意味で選ぶとよいかもしれない。自主的に来たいと思ってもらえるかまくらっ子をめざす。そのためにはどんなことが必要か、地域との関係、それも入ってくる。その辺りをポイントにして文章化していただき、委員に見てもらう形でよいか。意見があれば委員に加筆修正してもらえればと思う。

事務局：ご提案させていただいて、意見があれば期日までに回答してもらう。